



## 入学から3か月、子供たちの成長

先日、1年生の教室をのぞくと、ちょうどテストの真最中でした。5人の子供たちが、真剣な表情で問題に向き合っています。その姿を見ながら、私は小さな感動を覚えました。

4月に入学してからわずか3か月。子供たちは、45分間しっかりと教室で学習できるようになりました。ひらがなを読み、黒板の文字を書く写すことができるようになりました。算数の時間には、数を数えたり、一桁のたし算やひき算に取り組んだりしています。さらに、問題文を自分で読み、考え、答えを書くこともできるようになりました。

こうした成長は、決して当たり前のものではありません。子供たちの頑張りはもちろんのこと、日々温かく支えてくださっている保護者の皆様、そして一人一人に寄り添いながら指導している学級担任の石井先生の力があってこそその成長だと感じています。

旧ソビエト連邦の心理学者レフ・ヴィゴツキーが、子供の成長について考える際に示唆に富む例え話を残しています。少し言葉を補って要約すると、次のような内容です。

「大人のあなたが、もし今の能力を持ったまま小学校に入学したなら、学習内容は簡単で、おそらく学年で一番になるでしょう。1年後も、その地位は変わらないはずだ。しかし、その1年間で新しく学んだことや、新たにできるようになったことは、どれほどあるでしょうか。おそらく、ほとんどないでしょう。」

一方、周りの子供たちはどうでしょう。学ぶ速度には違いがあったとしても、できなかったことができるようになり、分らなかったことが分かるようになっていきます。そこにこそ、本当の成長があるのです。」



レフ・ヴィゴツキー  
(AI生成イラスト)

子供たちの成長の姿は一人一人違います。ほんの小さなきっかけで大きく伸びる子もいれば、時間をかけながら着実に力を積み重ねていく子もいます。また、特定の分野に強い興味を示し、驚くほどの集中力を発揮する子もいます。

私たち大人にできることは、それぞれの子供の歩みを他者と比べるのではなく、その子なりの成長を大切に見守り、励まし、支えていくことではないでしょうか。これからも子供たちの「できた」「分かった」という喜びを共に分かち合いながら、その成長を温かく応援していきたいと思います。



「校長室だより」への御意見・御感想は右のQRコードからどうぞ。

いただいた貴重なメッセージは、今後の学校運営の参考にさせていただきます。

